



東京全労協

2014年12月5日 69
東京都港区新橋6-7-1
川口ビル6F
TEL. 03 - 5403 - 1650
FAX. 03 - 5403 - 1653
発行人 瀧澤 朗
定価 1部 10円



14けんり春闘総行動
経団連前要請行動(3月28日)



安倍政権打倒で 結束して闘おう!

全ての勢力、戦線の連帯で 歴史的な闘いを前進させよう

東京全労協は首都東京で 労働運動の責任を担い奮闘する

2012年12月に発足した安倍政権は、デフレから脱脚し経済を再生して「日本を取り戻す」と登場した。この2年間に実行した経済政策「アベノミクス」は、円安と株高を誘導させ、ひ

と握りの多国籍大企業と大銀行は過去最高の収益を上げ、内外投資家など一部富裕層に富を増加させた。しかし、労働者を始め中小企業、農林漁民など国民大多数には、実質賃金の減少、非正規労働者の激増、消費税の増税と社会保障費の削減、輸入原材料の高騰、米価の大幅な下落などで収奪と負担を強化して生活と営業を悪化させた。

地方では疲弊が進行し、さらに、震災・原発事故の被災地では現状回復にほど遠いなか原発再稼働が推進され各地で怒りの声が上がっている。

経済成長を通じて財政再建につなげるとしたアベノミクスは、公共事業18兆円を含む総額200兆円を超える財政出動にもかかわらず国内需要は冷え込んだまま。さらに4月に消費税を増税した以降の経済成長は、4～6月期年率換算7.3%、7～9月期1.6%と大きく落ち込み、今年度はマイナス成長が確実視されている。アベノミクスの欺瞞と失敗はすでに明らかだ。

消費税10%への増税先送りも余儀なくされた安倍首相は国民を欺き「アベノミクスの信を問う」と衆議院を解散させ、12月2日に総選挙は公示されている。

私たち労働組合は、1996年の「橋本六大改革」から「小泉改革」そして「アベノミクス」としてつづく経団連が要求する「小さな政府」を目的とした、庶民に犠牲を押し付け規制緩和を推進する「改革政治」に歯止めをかけるために、闘う全ての勢力の先頭に立たなければならない。

安倍首相は、2013年1月に閣議決定した成長戦略で「世界で一番企業が活躍しやすい国」を目指すとし、さらに、本年1月22日の世界経済フォーラム(ダボス会議)では「既得権益の岩盤を打ち破るドリルの刃になる」と世界に発信した。自ら「ドリル」となり打ち破るとした「既得権益」とは、長年にわたり労働者と労働組合が血と汗を流した闘いの歴史のなかで営々と築き上げてきた「労働法制」そのものがある。

11月臨時国会で労働者派遣法改悪案は廃案となったが、有期労働契約の無期転換ルールは10年超に労働契約法18条の特措法改悪案が強行採決された。

労政審では労働時間規制の緩和「残業代ゼロ法案」などの準備が進められている。

東京全労協は、安倍政権の雇用破壊と闘うネットワークに結集し、労働法制改悪と闘ってきた。ナショナルセンターを超えた総労働の団結で、財界の手先となり雇用破壊を進める安倍首相の労働法制改悪を許さず国民犠牲の改革政治と闘おう。

15春闘に勝利しよう! 人間らしく生活できる大幅賃金引き上げを勝ち取ろう!

15けんり春闘全国実行委員会発足総会・学習会

日時: 12月13日(土) 13:30~

会場: 韓国YMCA 9階 (JR水道橋下車)

第一部 結成総会 (13:30~14:00)

第二部 学習集会 (14:00~16:30)

講師: 棗 一郎 (日本労働弁護団常任幹事)

「安倍政権の労働法制改悪がもたらすもの」

主催: 15けんり春闘全国実行委員会(仮)



均等待遇をめざして

労契法20条裁判をたたかう郵政原告団 支える会結成総会を開催

200名で開催される

11月30日、農水省・南青山会館で「労働契約法20条裁判をたたかう郵政原告団を支える会」の結成総会が開催されました。会場には東西の原告9名をはじめ、200名を超える郵政ユニオンの組合員や支援・連帯する労組や仲間が結集しました。

総会では支える会・準備会から「会則」(案)及び会則に基づく役員についての提案が行われ、満場一致で承認されました。



11月30日、200名を超える仲間が結集した結成総会 (写真はレイバーネットより)

会の共同代表には労働法の権威でもある西谷敏大阪市立大学名誉教授、元朝日新聞記者でジャーナリストの竹信三恵子と光光大学教授、前日本労働弁護団会長で20条裁判の弁護団の一員でもある宮里邦雄弁護士が選ばれました。

また、会を担う運営委員には全労協、全労連から選出しました。東京全労協からは中原純子副議長が選ばれ、力強い就任のあいさつも行いました。東京地評からは松本秀典副議長が選出されました。遠く関西から駆けつけた共同代表の西谷先生はあいさつの中で「郵政における人間の尊厳を取り戻すための裁判を心から応援する」、そのために共同代表になつた、「絶対に負けられない」と決意を述べました。



飛行機整備場内でも見学(11月1日)(南部全労協)

原告団が決意表明

栗弁護士からの裁判報告

そして個性溢れる原告一人ひとりの決意表明は笑いあり、感動有りの圧巻でした。

「非正規議員連盟」の福島みずほ幹事長からのメッセージ、全労協、全労連、MIC、JAL争議団からの連帯のあいさつ、さらには共に20条裁判をたたかう東京メトロコマース支部、全日建運輸連帯労組からのあいさつと盛りだくさんの結成総会となりました。会への入会をお願いします。

郵政20条裁判を支える会 事務局長 中村 知明

南部全労協 「見てみよう羽田空港 聞いてみよう JAL労働者の闘い」

南部全労協は、毎年秋にレクリエーションを行っていますが、今年は「見てみよう羽田空港 聞いてみようJAL労働者の闘い」と題して羽田空港見学会を11月1日に19名の参加で行いました。

案内役は日本航空ユニオンの諏訪書記長でした。午前中は、彼からJALの労働者の現状を聞きました。放漫経営によって破たんしたJALは、165名の労働者を解雇し、残った労働者

者には「利益なくして安全なし」等の意識改革教育が行われ、賃下げ、コスト削減の結果労働者が疲弊する事態が生み出されたこと。これらの結果、再建後すぐの2011年には2000億円の史上最高の純利益が出ていますが、労働者には還元されていないとのことでした。

また、ベテランを辞めさせたり解雇した結果、客室乗務員の3人に一人は1年未満の新人、整備において

も不具合の連続で今年の5月には機体整備を5日間連続でストップするなど空の安全を保てない状況が生み出されていることが説明されました。午後の整備場見学会では、エンジンが一つ無い飛行機が雨ざらし状態で放置されている現場を目撃しました。

労働者が一生懸命仕事をしたくても必要な機材がない、経験豊富な職場の先輩がいないなど、JALで今起きていることを知ることで、争議支援を行わなければと更に思いを強くしました。

事務局長 藤村 妙子

2015年全労協並びに東京全労協新春旗開き
日時 2015年1月16日(金)午後6時30分～午後8時
会場 新橋・交通ビルB1ホール
東京都港区新橋5-15-5 交通ビルB1

11・26 東部けんり総行動

- 9:00 JR日暮里駅東口 集会
- 9:45 西日暮里・富士美術印刷(東京労組) 偽装破産・解雇 申し入れ行動
- 10:45 本郷・学習塾市進学院(東部労組) 雇い止め解雇 申し入れ行動
- 11:30 御茶ノ水・井上眼科病院(全統一労組) 解雇・組合つぶし 抗議行動
- 13:40 大手町・NTT本社・(木下さん解雇・N関労・電通労組) 申し入れ行動
- 14:30 国土交通省(JAL原告団) 申し入れ行動
- 15:15 赤坂見附 鹿島(いわき自由労組) 申し入れ行動

東部全労協は年2回、春と秋に東部けんり総行動を行い地域の闘いを支援しています。毎回バス2台で移動し、参加は約100名程度です。

このところでは、組合つぶしや職場での闘争ではなく、解雇が増えています。解雇をされての闘いは、当該はもちろん支援する仲間にも大きく「力」が必要とされます。

一日も早くすべての争議が解決する様、東部全労協は精一杯総行動を継続していきます。

冷たい雨の降る中、一日中雨に打たれながら、参加された仲間のみなさん、本当におつかれさまでした。

東部全労協 久野 茂

